



2024年度 神山町内 食農プログラム
ふりかえりアンケート設計の考え方
報告書

NPO法人 まちの食農教育

2025年3月31日



まちの食農教育
Community Supported School Lunch

目次

(アンケート実施日 2025年3月12日～19日)

食農プログラム アンケート設計の考え方 P.2

資料

A小学校1年生―野菜を育てよう P.3

A小学校2年生―野菜を育てよう P.5

A小学校3年生―野菜の栽培と道の駅での販売 P.8

A小学校5年生―もち米の栽培 地域の食文化をつなぐ P.11

B小学校2年生―大豆をそだてよう～在来大豆をそだてる P.15

B小学校3・4年生―育てた大豆で味噌づくり P.17

B小学校5年生―もち米の栽培 地域の食文化をつなぐ P.20

B小学校5・6年生―カレープロジェクト P.21

食農プログラム アンケート設計の考え方

▼目的

- ・各食農プログラムを体験した子どもたちに、自分自身の学びを振り返る機会を提供する
(質問することで、子どもたちの気づきを促す、モチベーションを高める)
- ・設計した食農プログラムのチューニング・改善に向けて検討材料を得る

▼アンケートで把握したいこと

- ・設計した食農プログラムの目標やねらいと実際の活動効果にずれがないか
- ・子どもたちの興味関心度合や理解状況(NPOで記録をアーカイブ・中長期での成長の見守り)

▼設計ポイント

- ✓対象学年・プログラムを問わず、ある程度フォーマット化してトラッキングを図れること
- ✓ルーブリック「学び上手になるロードマップ」の活用
- ✓集計、分析のしやすさ
- ✓所要時間10分程度(授業の妨げにならないことに配慮する)

▼構成要素

1. 理解度・興味関心度チェック—学んだことを振り返ってみよう!
2. 学び・気づきの言語化—学んだことを活かしてみよう!
3. 学び上手になるロードマップを活用した俯瞰—学びのステージを確認してみよう!

▼次年度以降の検討事項

1. 数年間の変化を追える方法の模索
 - 1 質問を同じにする
 - 2 ルーブリックでの自己評価をトラッキングする
2. (学校主体で取り組んでいる振り返りの材料を使えるのであれば)
感想文をテキストマイニング分析する
→食農プログラムを通じて得られる気づきの傾向を可視化する

(資料)

2024年度 食農プログラム:野菜を育てよう

A小学校1年生

Q1:プログラムを通して、とくにおもしろかったことを3つえらんでみましょう。

- ①XXXさん(ファームティーチャー)のおはなし ②たねまき ③間引き
④ともだちと畑(はたけ)に行くこと ⑤野菜(やさい)のお世話をすること
⑥やさいのしゅうかく ⑦つぼみのかんさつ

Q2:このプログラムでしったことを、4月に入学する1年生におしえてあげるとしたら、
どんなことをつたえたいですか？

Q3:プログラムをふりかえってみて、自分の気持ちにもっともちがい数字に○をつけてください。

○をつけよう→	*1	2	3
できたよ！	やさいをそだてる活動を通じて、畑に行くことが楽しみになる	やさいをそだてる活動に、すすんで取り組んでいる	やさいをそだてる活動では「自分でできた！」とおもえる
○をつけよう→	*1	2	3
みつけたよ！	やさいをそだてる活動を通じて、やさいの成長を感じている	やさいがそだっていく様子を、目や耳、鼻や手をつかってかんさつしている	やさいがそだっていく様子から、いろんなことを発見できる
○をつけよう→	*1	2	3
なぜだろう？	はじめて取り組むことにワクワクしている	知らないことや知りたいことに注目している	知りたいこと、ぎもんに感じたことを書いたり伝えたりしている

*まちの食農教育版ルーブリック1.0「小学生」版における；

できたよ！自己を肯定する／みつけたよ！＝フラットに観察する／なぜだろう？＝日常的に問いを持つ

小学1・2年生対象には、「学びの姿」のステージ「Feel」より前の段階としてPreステージを置いています。①Pre ②Feel

③Feel & Try

(資料)

2024年度 食農プログラム:野菜を育てよう

A小学校2年生

Q1:プログラムを通して、とくにおもしろかったことを3つえらんでみましょう。

- ①農家(ファームティーチャー)のお話・交流 Mさん、Wさん
②たねまき ③間引き ④ともだちといっしょに畑に行くこと
⑤野菜のお世話をすること ⑥しゅうかく ⑦はんぱい(先生方・まちのお店)
⑧たねをプレゼントすること ⑨かんさつ記録をかくこと

Q2:Q1の①～⑨以外に「ここがおもしろかったよー!」ということがあれば、教えてください。

Q3:このプログラムで学んだことを下級生に教えるとしたら、どんなことをつたえたいですか?

Q4:プログラムをふりかえってみて、自分の気持ちにもっともちがい番号に○をつけてください。

○をつけよう→	1	2	3
できたよ!	野菜をそだてる活動を通じて、畑に行くことが楽しみになる	野菜をそだてる活動に、すすんで取り組んでいる	野菜をそだてる活動を通じて、「自分でできた!」とおもえる
○をつけよう→	1	2	3
みつけたよ!	野菜をそだてる活動を通じて、野菜の成長を感じている	野菜がそだっていく様子を、目や耳、鼻や手をつかってかんさつしている	野菜がそだっていく様子から、いろんなことを発見している
○をつけよう→	1	2	3
なぜだろう?	はじめて取り組むことにワクワクしている	知らないことや知りたいことに注目している	知りたいこと、疑問(ぎもん)に感じたことを書いたり伝えたりしている

*まちの食農教育版ルーブリック1.0「小学生」版における;

できたよ! 自己を肯定する/みつけたよ! =フラットに観察する/なぜだろう? =日常的に問いを持つ

小学1・2年生対象には、「学びの姿」のステージ「Feel」より前の段階としてPreステージを置いています。①Pre ②Feel

③Feel & Try

(資料)

2024年度 食農プログラム:大豆の栽培 野菜の栽培と道の駅での販売

A小学校3年生

Q1:プログラム内容の理解について、もっとも近いものをえらんでください。

①よくわかった ②わかった ③どちらともいえない ④あまりわからなかった ⑤わからなかった




Q2:プログラムを通して、とくにおもしろかったことを3つえらんでみましょう。

①豆クイズ ②スマイルの畝(うね)づくり ③種まき(2回)
④トンネルづくり(鳥、うさぎよけ)…西川さん ⑤草取り ⑥大豆のしゅうかく…西川さん
⑦道の駅で販売 ⑧まちの人たちとの交流 ⑨脱穀(だっく)

Q3:Q2の①～⑨以外に「ここがおもしろかったよ!」ということや、家に持ち帰ってからの出来事があれば、教えてください。

Q4:このプログラムで学んだことを下級生に教えるとしたら、どんなことを伝えたいですか?

Q5:プログラムをふり返って、感覚的にもっとも近い番号をえらんで各空らんに記入してください。

	①②③いずれかを記入	*①	②	③
フラットに観察する 		野菜がそだっていく様子を、目や耳、鼻や手をつかってかんさつしている	野菜がそだっていく様子から、いろんなことを発見している	発見したことを、絵や言葉、自分がとくいな方法で伝えている
つながりを理解する 		たねをまき、めが出て育つまでのながれを知っている	食べ物が育つには、たねのじょうたいだけでなく、まわりの生き物の暮らしもかわっている	たべものが育てるために、生き物や気候などを含めたかんきょうを知ろうとしている
日常的に問いを持つ 		知らないことや知りたいことに目を向けている	知りたいこと、疑問(ぎもん)に感じたことを書いて伝えたりしている	知りたいことや疑問(ぎもん)に感じたことを進んで調べている

(資料)

2024年度 食農プログラム:もち米の栽培 神山の食文化をつなぐ

A小学校5年生

Q1:プログラム内容の理解について、もっとも近いものをえらんでください。

- ①よく理解できた ②理解できた ③どちらともいえない ④あまり理解できなかった
⑤理解できなかった

Q2:プログラムを通じて、特におもしろかったことを3つ選んでみましょう。

- ①農家(ファームティーチャー)のレクチャー ②まちの人たちとの交流 ③塩水選 ④粃まき
⑤田植え ⑥稲刈り ⑦給食

Q3:Q2の①～⑦以外に「ここがおもしろかったよ!」ということがあれば、教えてください。

Q4:このプログラムで学んだことを下級生に教えるとしたら、どんなことを伝えたいですか?

Q5:このプログラムで疑問に感じたことはどのようなことですか?

Q6:プログラムをふり返って、感覚的にもっとも近い番号をえらんで各空らんに記入してください。

	①～④いずれかを記入	①	②	③	④
多様性を大切にする		自然のなかに身を置く感覚を楽しんでいる	プログラムで関わった食べ物を、自分と同じ「いのち」だととらえている	多様な「いのち」が育まれる自然環境を大切にしたいと意識している	プログラムを通じて、自分自身の行動とのつながりを自覚し、自然環境を大切にするために行動している
つながりを理解する		もち米栽培の過程を、連続した流れとして意識している	もち米栽培を体験することで、食べ物と周辺環境、人が関わり合っているのを感じている	ものごとが相互に関わり、農業が成り立っていることを理解している	体験したもち米栽培を、より良くしていくために自分でどんなことができるか、思い浮かべている
仲間と協力し合う		仲間や地域の人たちとともに活動する機会を持っている	活動をともしする人々と協力し合っている	協力し合う人たちの声に耳を傾け、一緒に考え、意見を交換する	協力し合って成果を持つことで、協働する大切さを感じている

日常的に 問いを持つ		知りたいことや疑問 に感じたことに意識 を向けている	知りたいことや疑問 に感じたことを表現 している	知りたいことや疑問 に感じたことを調べ ている	調べたことをもとに、新 たな問いを持ち、学び続 けている
---------------	--	----------------------------------	--------------------------------	-------------------------------	------------------------------------

*まちの食農教育版ルーブリック1.0「小学生」版 ①Feel ②Feel & Try ③Feel & Try & Think ④Feel & Try & Think & Connect

(資料)

2024年度 食農プログラム:大豆をそだてよう～在来大豆をそだてる～

B小学校2年生

Q1:プログラムを通して、とくにおもしろかったことを3つえらんでみましょう。

- ①ファームティーチャーのお話、まめクイズ ②畝(うね)づくり ③たねまき ④間引き
⑤大豆(だいず)や小豆(あずき)をそだてるための世話 ⑥しゅうかく ⑦だっく
⑧たねのひきつぎ

Q2:Q1の①～⑧以外に「ここがおもしろかったよー!」ということがあれば、教えてください。

Q3:このプログラムで学んだことを下級生に教えるとしたら、どんなことをつたえたいですか?

Q4:プログラムをふりかえって、自分の気持ちにいちばんちかい番号に○をつけてください。

○をつけよう→	*1	2	3
できたよ!	大豆(だいず)をそだてる活動を通じて、畑に行くことが楽しみになる	大豆をそだてる活動に、すすんで取り組むことができる	大豆をそだてる活動を通じて、「自分でできた!」ことがふえていく
○をつけよう→	1	2	3
みつけたよ!	畑に行くと、大豆の成長を感じられる	大豆がそだっていく様子を、目や耳、鼻や手をつかってかんさつしている	大豆がそだっていく様子をみながら、いろんなことを発見できる
○をつけよう→	1	2	3
なぜだろう?	はじめて取り組むことにワクワクしている	知らないことや知りたいことがどんどん出てくる	知りたいこと、疑問(ぎもん)に感じたことを書いたり伝えたりしている

*まちの食農教育版ルーブリック1.0「小学生」版における;

できたよ! 自己を肯定する／みつけたよ! =フラットに観察する／なぜだろう? =日常的に問いを持つ

小学1・2年生対象には、「学びの姿」のステージ「Feel」より前の段階としてPreステージを置いています。①Pre ②Feel

③Feel & Try

(資料)

2024年度 食農プログラム:育てた大豆で味噌づくり

B小学校3年生 3名・4年生

Q1:プログラムをふりかえって、もっとも近いものを選んでください。

- ①よくわかった ②わかった ③どちらともいえない ④あまりわからなかった ⑤わからなかった

Q2:プログラムをとおして、とくにおもしろかったことを3つえらんでみましょう。




- ①おださん(キッチンティーチャー)・うえた先生(えいようきょうゆ)のお話
②手前みその歌 ③塩とこうじを混ぜて塩きりこうじをつくる さぎょう ④大豆をつぶす さぎょう ⑤みそだんごづくり ⑥大豆のすがたの変化 ⑦みその味見

Q3:Q2の①～⑦以外に「ここがおもしろかったよー!」ということがあれば、教えてください。

Q4:このプログラムで学んだことを下級生に教えてあげるとしたら、どんなことを伝えたいですか?

Q5:このプログラムでぎもんに感じたことはどのようなことですか?

Q6:プログラムをふり返って、感覚的にもっとも近い番号をえらんで各空らんに入力してください。

	①②③いずれかを記入	①	②	③
自己を肯定する 		味噌(みそ)をつくる活動に、前向きな気持ちで取り組んでいる	味噌(みそ)をつくる活動を通して、「自分でできた!」ことを実感している	「自分でできた!」という経験(けいけん)を重ね、自分の考えや取り組みを大切に思っている
フラットに観察する 		味噌をつくる場で、目や耳、鼻や手を使って観察(かんさつ)している	味噌をつくる様子から、いろんなことを発見している	発見したことを、自分がとくいな表現方法(絵・言葉・歌など)で伝えている
日常的に問いを持つ 		味噌をつくる場で、知りたいことや疑問(ぎもん)に感じたことに注目している	知りたいことや疑問(ぎもん)に感じたことを、表現している	知りたいことや疑問に感じたことを、進んで調べている

(資料)

2024年度 食農プログラム もち米の栽培

B小学校5年生

Q1: プログラム内容の理解について、もっとも近いものをえらんでください。

①よく理解できた ②理解できた ③どちらともいえない ④あまり理解できなかった ⑤理解できなかった

Q2: プログラムを通じて、特におもしろかったことを3つ選んでみましょう。

①農家(ファームティーチャー)のレクチャー ②まちの人たちとの交流 ③塩水選 ④粃まき
⑤田植え ⑥稲刈り ⑦給食

Q3: Q2の選択肢以外に「ここがおもしろかったよ!」ということがあれば、教えてください。

Q4: このプログラムで学んだことを下級生に教えるとしたら、どんなことを伝えたいですか?

Q5: このプログラムで疑問に感じたことはどのようなことですか?

Q6: プログラムをふり返って、感覚的にもっとも近い番号を選んで各空らんに記入してください。

(資料)

2024年度 食農プログラム 神山カレープロジェクト

B小学校5年生 2名・6年生

Q1: プログラムを通じて、特におもしろかったことを3つ選んでください。

- ①折野さん(タカラ食品)のお話(レトルト食品について) ②高校生との交流
- ③レトルトパック・食品保存の仕組み ④カレー調理 ⑤食べ比べ ⑥パッケージデザインを考える
- ⑦販売(かみやまマルシェ)

Q2: Q1の①～⑦以外に「ここがおもしろかったよ!」ということがあれば、教えてください。

Q3: プログラムで学んだことを下級生に教えるとしたら、どんなことを伝えたいですか?

Q4: プログラムで学んだことを日々の生活に活かすとしたら、どのように役立てていきたいですか?